

LINN LP-12 の再構成(31)

—総合試聴—

1. 始めに

[前報\(23\)](#)で述べたカルーセルキットの導入など一連の改造と [TruPhase の導入\(1\)](#)で述べた TruPhase 導入の効果を、不用品の引き取りその他、種々雑用をお願いしてご来臨いただいた、ST 氏に確認していただきました。

2. LINN LP-12 の再構成の実施内容と試聴方法

改造の実施内容は、[前報\(23\)](#)で述べたとおりです。

カートリッジは、My Sonic Signature Gold で、接続に関しては、[ZANDEN Model 120 の活用\(33\)](#)同様、下記のとおりとしますが、アンプが替わっています。すなわち、アンバランス/バランス変換プラグを用いて BACU-2000 経由で Model120 にバランス入力します。

今回も P&G のフェーダーに替えてパッシブアテネーターの TruPhase を使用し、RCA 入力→RCA 出力とします。なお、AACU-1000 は TruPhase の入力側と出力側にセットします。

LINN LP-12→(フォノケーブル)→(アンバランス/バランス変換プラグ)→(BACU-2000) →Model120(バランス入力端子→アンバランス出力端子)→(アンバランスケーブル)→(AACU-1000)→TruPhase→(AACU-1000)→(アンバランスケーブル)→Langvin 6V6pp

なお、[LINN LP-12 の再構成\(22\)](#)で報告しましたように LP-12 の電源を交換し、外付けとしています。また、LP-12 の軸受けをカルーセルに更新しています。

使用した盤は、次のものです。

Riverside Rlp9407

Bags meets Wes

【Columbia、逆相、第4時定数 High】

RCA SRA-9501/9502

John Denver

【Columbia、逆相、第4時定数 High】

CBS SONY 28AH1467

森山良子

【Columbia、逆相、第4時定数 Low】

PHILIPS FD-7101-3

モール・モーリア

【RIAA、正相、第4時定数 High】

CBS SONY SOPZ 39-40

サイモンとガーファンクル

【Columbia、逆相、第4時定数 Low】

TAURUS 28TR-2062

テレサ・テン

【TELDEC、逆相、第4時定数 High】

SOMETHIN'COOL SCLP-1055

Misty

TSUYOSHI YAMAMOTO TRIO

【DECCA、正相、第4時定数 High】

LONDON KLJC-9180/9184 (RTI/キングレコード)

リヒャルト・ワーグナー：ワルキューレ全曲

ゲオルグ・ショルティ指揮ウイーンフィル

【DECCA、逆相、第4時定数 High】

この他、デジタル音源として Live Extreme のストリーミング音源の藤田恵美のライブアーカイブの [Headphone Concert 2021](#) を PC 経由で、YouTube の [Ehrlund 製マイクロフォンのデモ音源](#) を DMR-UBZ1 経由で聴いていただきました。

3. LINN LP-12 の再構成後の試聴結果

上記の【 】内は ZANDEN Model 120 の設定条件です。クラシック以外は、ZANDEN のリストにないレーベルもあって、判断に自信がありませんが、その場の印象を頼りに設定して聴いていきました。

まずは、アナログの試聴の前に、上記のデジタル音源を聴いていただきました。

192KHz で配信される藤田恵美は、ST 氏も CD 等で聴かれているようで、ライブのリアル感は相当に評価できるとのことでした。これを聴いてしまうと YouTube の方は、元録音のマイクの良さは分かるが、物足りないということでした。

手持ちの Bags meets Wes と John Denver は、これまでと違って、ベールがはがれたようだというご感想です。

森山良子とモール・モーリアとサイモンとガーファンクルは、当方不用の盤で引き取ってもらうものですが、ご自宅に戻って確認したいということでかけてみました。当方の印象では、森山良子とサイモンとガーファンクルの声が若々しく、張りがあるように聴こえました。

テレサ・テンの後、本命の Misty のダイレクトカットティング盤を聴いていただきましたが、クリーンでソフトな印象だということでした。試みに、カーブを RIAA にす

ると、平板で物足りなくなるということでした。では、スピーカーを **JBL4350A** 替えてはどうかということで切り替えたところ、こちらの方はアタック感が出て、山本剛のピアノらしいというご感想でした。ここでもカーブを **RIAA** にすると、物足りなくなるということでした。

クラシックも聴かせてほしいということで、ワルキューレを **JBL4350A** で聴いていただきましたが、迫力はあるものの、粗さがめだつということで、もとの **FAL C90EXW** に戻すと、ステージの細かい情景が伝わってくるというご感想でした。

4. まとめ

新規フォノイコライザーの導入から **TruPhase** の導入や **LP-12** のカルーセルキットへの更新の効果などを総合的に **ST** 氏に確認していただきました。また、イコライザーカーブの重要性、音楽ジャンルに対するスピーカーの得手不得手、**Live Extreme** の **Platform** のポテンシャルなどもご確認いただきました。

以上